

平成28年度病院医学教育研究助成成果報告書

報告年月日：平成29年 3月31日

研究・研修課題名	平成28年度 妊娠と薬情報センター業務研修会
研究・研修組織名（所属）	薬剤部（薬剤部）
研究・研修責任者名（所属）	遠藤 進一（薬剤部）
共同研究・研修者名（所属）	遠藤 進一（薬剤部）

目的及び方法、成果の内容

①目的（800字程度）

妊娠中あるいは授乳中の女性に対する薬物治療においては、妊娠・授乳期に特有な母体の変化と乳児への有害作用を考慮しなければならない。そのためには、薬剤師が医師と連携し、母子双方にとって安全かつ適切な薬物療法が実施されるように薬物選択や妊婦・授乳婦カウンセリングを提供することが必要となる。2005年10月より、成育医療研究センターを中心に厚生労働省の事業として、「妊婦・胎児に対する服薬の影響」に関する相談・情報収集が実施されており、その協力病院として全国に「拠点病院」を指定し、双方向の情報提供を実施するネットワークが構築されている。本年度より当院も「拠点病院」として指定され「妊娠とお薬外来」での相談受付が開始し、相談業務において妊娠・授乳期の薬剤使用の情報提供を行っている。また、将来的に拠点病院をネットワークとして相談業務、情報収集の充実を図ることにより情報量の増加が見込まれ、妊娠と薬に関するデータベースの充実・添付文書への反映などが期待され、次年度には全ての都道府県に「拠点病院」が設置されることが決定しており、「妊婦・胎児に対する服薬の影響」に関する情報ネットワークが充実されることとなっている。さらに「妊娠とお薬外来」を中心とする妊婦・授乳婦薬物療法関連の薬剤業務を充実させるため、妊娠・授乳期における薬物療法に関する高度な知識、技術、倫理観を有する薬剤師を育成することが求められる。薬剤師を本研修会へ参加させ、講義を聴講・カウンセリングの模擬演習を実施することで、妊婦・胎児に対する服薬に必須な最新の知識を修得することができ、またカウンセリング技術を修得することができ、より有効で安全な薬物療法の実施に貢献できるものと思われる。

## ②方 法（800字程度）

平成28年度 妊娠と薬情報センター業務研修会

時期：平成29年2月17日～19日

会場：東京（国立成育医療研究センター）

医師1名と薬剤師2名が参加し、研修会に参加する。派遣した薬剤師が部内で研修内容を報告することにより他の薬剤師へ知識を伝達する。

《研修カリキュラム》

2/17(金)《薬剤師のみ》

- ① 妊娠と薬情報センター概要説明・事務手続き説明
- ② 授乳相談 妊娠と薬情報センター・肥沼幸
- ③ 産科医療の基礎知識 妊娠と薬情報センター・渡邊央美
- ④ カウンセリング 国立成育医療研究センター・中島研、三大寺紀子
- ⑤ 模擬演習

2/18(土)《医師・薬剤師》

- ① 海外の添付文書の現状、FDA 分類の考え方について 虎の門病院薬剤部・林昌洋
- ② 日本の医薬品添付文書の現状と今後について 筑波大学附属病院産婦人科・濱田洋実
- ③ 妊娠と喘息 国立病院機構相模原病院・谷口正実
- ④ 胎児毒性・新生児薬物離脱症候群 帝京大学附属病院小児科・伊藤直樹
- ⑤ 生殖発生毒性試験 北里第一三共ワクチン株式会社・下村和裕
- ⑥ 授乳と薬剤 横浜市立大学附属市民総合医療センター・関和男
- ⑦ 精神疾患と妊娠・産褥 順天堂大学医学部附属越谷病院メンタルクリニック・鈴木利人
- ⑧ 慢性腎臓病合併妊娠について 東京女子医科大学腎臓内科・内田啓子

2/19(日)《医師・薬剤師》

- ① リウマチ・膠原病合併妊娠と薬剤 国立成育医療研究センター内科・後藤美賀子
- ② 抗てんかん薬と妊娠・授乳 むさしの国分寺クリニック・加藤昌明
- ③ 甲状腺疾患合併妊娠と薬剤 国立成育医療研究センター内分泌内科・荒田尚子
- ④ 模擬演習

村島温子・肥沼幸・後藤美賀子・伊藤直樹・渡邊央美・中島研・大穂東子・三大寺紀子

### ③成 果 (データ等の図表を入れて2000字程度)

『妊娠と薬外来』を担当する医師・原友美、薬剤師・遠藤進一、北郷真史が参加した。

「妊婦・胎児に対する服薬の影響」に関する情報ネットワークは(図)のとおり構築されており、この研修会は拠点病院のスタッフ(医師・薬剤師)を対象としたもので、更なる知識力、カウンセリング技術の向上を目的として毎年、国立成育医療研究センターで開催されている。講義だけでなく模擬患者でのカウンセリングの実習形式のものもありかなり充実した内容となっている。

研修会の一部を報告する。

講義の内容はこれまでの日病薬主催の研修会でも聴く機会があったものがほとんどであったが、今回の研修会で再度聴講することで妊娠・授乳と薬の知識をより確かなものとすることができた。

この研修会では単に講義を聴講するだけではなく模擬演習もあり、研修会1日目は薬剤師同士で演習を行い、3日目は主に新規拠点病院の医師・薬剤師が行った。普段、病棟で行うような薬剤師一患者での指導ではなく医師も交えたカウンセリング形式であり、また新規拠点病院の医師・薬剤師が担当したため「緊張してうまく説明ができない」「医師(薬剤師)との連携が思うようにいかない」など戸惑いの声が多く聞かれた。また、配布された報告書通りに説明を進めると「時間が足りない」などの声も聞かれた。本相談業務では、相談者が希望した拠点病院に対して妊娠と薬情報センターより問診票と相談者が服用している薬剤のリスク評価報告書が送付される。薬剤師はその報告書を元に相談者に情報提供を行い服用するかどうかを相談者・相談者家族に決定していただくこととなる。しかし、ただ報告書を読むだけでは相談者に理解をしてもらうことは難しく、相談者がどの情報を必要としているのか?どのようなイメージなのか?理解力がどの程度あるのか?なども踏まえて、相談者の表情・反応などにも注意をはかりながら相談業務を行うことが重要である。今回の研修は、特に模擬演習を行った新規拠点病院の医師・薬剤師にとって今後の相談業務を行う上で大いに参考になるものであり、カウンセリング経験のある医師・薬剤師にとっても普段の業務を見直すいい機会になり、この模擬演習はカウンセリ

ングの技術の向上につながるように感じた。更には、他施設の医師・薬剤師からも様々な意見・アドバイスを受けることができ、また当院より参加した医師とも相談業務に向けたディスカッションができ、3日間の研修とはいえかなり密度の濃いものであり、この経験を今後に生かせるものとする。